

哲学I				単位数	2単位
授業コード	12015	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	袴田 渉				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本講義は、今日を生きる私たちの世界観・人間観にも深い影響を及ぼす古代西洋哲学の歴史を知るとともに、古代を生きた人びとが「世界」や「自己」を問い、考えてきたその仕方を、具体的なテキストの言葉を通して学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	古代哲学の歴史の流れを理解する。			知識・技能	
2	哲学者たちの考える仕方にならい、自分で物事を考えることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%			1	
2	期末レポート 70%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨン 2 哲学の始まり(1): タレス 3 哲学の始まり(2): タレスの弟子たち(ミレトス学派) 4 哲学の始まり(3): ピュタゴラス 5 哲学の始まり(4): ヘラクレイトス 6 「ある」ということ: パルメニデス 7 多元論(1): エンペドクレス 8 多元論(2): アナクサゴラス 9 多元論(3): デモクリトス 10 ソフィストたち(1): プロタゴラス 11 ソフィストたち(2): ゴルギアス 12 愛知者: ソクラテス 13 イデア論(1): ソクラテスとプラトン 14 イデア論(2): プラトン 15 まとめ					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業で学んだことを書きとめておき、興味を持った点や疑問点について参考書などで調べ、自分の関心を深める。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 毎回の授業で資料を配布する。 <参考書> 『西洋哲学史-古代から中世へ』，熊野純彦，岩波新書 『岩波哲学・思想事典』，廣松渉[他編]，岩波書店
オフィスアワー 質問等はメールで受け付ける。
連絡先 hakamada-w@catherine.ac.jp
留意事項

哲学II				単位数	2単位
授業コード	12020	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
現代を生きる私たち人間にとって、哲学はどのような意味と役割を持ちうるのだろうか。本講義では「哲学」という思考のスタイルの特徴と、その方法を学びながら、19世紀後半から20世紀の哲学者たちの向き合った「世界」「自己」「身体」「欲望」「他者」「言葉」といった問題について考察する。たんに哲学的知識の集積に終わらない、現実と対話する真の哲学的思考の確立を目指したい。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 哲学的な思考のスタイルや哲学者の見解を理解し、諸科学との違いを踏まえ、その概念を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	日常生活の中に哲学的な問題を発見し、その問いを明確に表現し、思考を通じた言語的応答を実践することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業態度、リアクションペーパー：40%			1/2	
2	期末レポート：60%			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 導入：対話としての哲学 2 「世界」に出会う①存在の驚き 3 「世界」に出会う②現実と虚構 4 「自己」への問い①関係としての自己 5 「自己」への問い②意識としての自己 6 「身体」への眼差し①「いのち」としての自己 7 「身体」への眼差し②「からだ」としての自己 8 「欲望」を見つめる①「快」と「苦」のあいだ 9 「欲望」を見つめる②「無意識」の深みへ 10 「他者」に向き合う①「こころ」という謎 11 「他者」に向き合う②「すがた」の倫理 12 「言葉」を生きる①意味から行為へ 13 「言葉」を生きる②聴取と表現 14 「対話」のゆくえ～沈黙と語り 15 まとめ					

<p>定期試験 最終授業時にレポートを提出してもらう。課題は授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）事前に指示する教科書の該当箇所を目を通しておく。（30分） （復習）講義の中で取り扱った問いや、リアクションペーパーに記述した自分の考えを振り返ってまとめ、そこでの疑問点について整理する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売） 『他者と沈黙 ウィトゲンシュタインからケアの哲学へ』 崎川 修, 晃洋書房, 2020年 ISBN9784771033054</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <参考書等> 参考書は講義内で紹介する。 随時プリントを配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問や相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。</p>

倫理学 I				単位数	2単位
授業コード	12070	科目ナンバリング	11070-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>私たち人間は互いの人格を認め合い、また自己の人格を引き受けて生きる存在である。しかし「一人格である」ということは、つねにそれぞれの人生に与えられた「課題」であって、それは交わりの中で形成され、成熟していくものだといえる。本講義では「人格論」の視点から倫理学の根本にある「生き方」の問題を考察し、かけがえのない自己の人格性の形成について探求する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	人格の概念とその形成プロセスについての基本的知識を獲得し、それらについて説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	自己の人格において与えられている課題について認識したうえで、それに答えていく「生き方」を具体的に考察し、それについての意見を述べることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー：50%			1/2	
2	期末レポート：50%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人格論」としての倫理学 2. 人格とは何か 3. 交わりと人格形成 4. 知性と情緒 5. 自由と孤独 6. 愛と苦悩 7. 特別講義「悲しみとともにどう生きるか」(講師：入江杏) 8. キルケゴールに学ぶ ①美的な生 9. キルケゴールに学ぶ ②倫理的/宗教的な生 10. ニーチェに学ぶ ①道徳とルサンチマン 11. ニーチェに学ぶ ②ニヒリズムの問題 12. ドストエフスキーに学ぶ ①罪と罰 13. ドストエフスキーに学ぶ ②愛と再生 14. 希望としての人格 15. まとめ 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）シラバスに示されたテーマについて調べ、基本的な概念の意味などを確認しておく。（30分） （復習）リアクションペーパーに記入した自分の考えを、資料等と照らして確認し考察を深める。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） （参考書） 『他者と沈黙〜ウィトゲンシュタインからケアの哲学へ』 崎川 修, 晃洋書房, 2020年 『悲しみとともにどう生きるか』 入江杏（編）, 集英社新書, 2020年 『人として大切なこと』 渡辺和子, PHP文庫, 2005年 ほか授業内で随時紹介する。 必要な資料を適宜配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業内にて指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。 ・本講義は2年次生以上を履修対象とし、履修希望者が配当教室収容定員を超えた場合には、4年次生の履修を優先する。</p>

倫理学II				【単位数	2単位
授業コード	12085	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	袴田 渉				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本講義は、古代ギリシアから中世キリスト教に至るまでに生み出された、「徳」、「幸福」、「愛」などの倫理学の基礎的な諸概念を、それらの言葉の歴史とともに学び、いわば概念の身元をたどろうとする。そうすることで、私たち人間どうしが共に生きる日常において、欠くことのできない「倫理なるもの」への理解を深め、その今日における意義を考える。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	倫理学の基礎的な概念と学説を理解し、それらを説明することができる。			知識・技能	
2	倫理的な問いを自ら抱え、その問いについて自分で考え説明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%			1	
2	期末レポート 70%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨン 2 徳(1): 英雄社会における徳 3 徳(2): ポリス社会における徳 4 徳(3): 枢要徳 5 徳(4): 善のイデア 6 幸福(1): 最も善きもの 7 幸福(2): エウダイモニア 8 友愛(1): 友愛の条件 9 友愛(2): 自己愛から始まる愛 10 情念(1): パトス 11 情念(2): 情念の正体 12 情念(3): 情念の分類 13 隣人愛(1): 神への愛/人への愛 14 隣人愛(2): 赦し 15 まとめ					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業で学んだことを書きとめておき、興味を持った点や疑問点について参考書などで調べ、自分の関心を深める。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 毎回の授業で資料を配布する。 <参考書等> 『ソクラテスの弁明・クリトン』、プラトン[著]、久保勉[訳]、岩波文庫 『ニコマコス倫理学』上下、アリストテレス[著]、高田三郎[訳]、岩波文庫 『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』、日本聖書協会 『自省録』、マルクス・アウレリウス[著]、神谷美恵子[訳]、岩波文庫
オフィスアワー 質問等はメールで受け付ける。
連絡先 hakamada-w@catherine.ac.jp
留意事項

文学 I				単位数	2単位
授業コード	12110	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本古代文学の発生から成熟に至る過程について、政治的観点、及び、文化的観点から検証する。和歌と物語に焦点を絞り、文学現象の発展・深化と社会的背景との密接な関わりについて明らかにしたい。なお、適宜、作品解釈等について分担し、調査・発表を行うものとする。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	古代文学の発生と発展に関する基礎的内容について理解することができる。			知識・技能/主体性	
2	古代文学と政治との関わり、及び、古代文学と他の文化現象との関わりについて理解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	到達目標1・2について、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	復習シート10%			1/2	
2	調査・発表20%			2/3	
3	学期末レポート60%			1/2/3	
4	口頭試問10%			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義概要の説明-文学と政治・文学と諸文化- 2 文学と政治①-神話と記載文学- 3 文学と政治②-記紀歌謡と万葉集- 4 文学と政治③-国風暗黒時代と国風文化- 5 文学と政治④-公的文学としての和歌- 6 文学と政治⑤-物語と権力1 (竹取・うつほ・落窪等) - 7 文学と政治⑥-物語と権力2 (源氏) - 8 文学と政治⑦-物語と権力3 (後期物語・栄華・大鏡等) --前半まとめ 9 文学と諸文化①-和歌と歌合1- 10 文学と諸文化②-和歌と歌合2- 11 文学と諸文化③-物語と絵1- 12 文学と諸文化④-物語と絵2- 13 文学と諸文化⑤-物語のセオリー1- 14 文学と諸文化⑥-物語のセオリー2--後半まとめ 15 まとめ					

定期試験 学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法 レポートの総括コメントを公表予定。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）授業で扱う作品について、あらすじと文学史上の意義を整理しておくこと。また、調査・発表担当者は、指示を遵守しつつ発表準備に当たること。（60分） （復習）復習シートに必要事項を記入の上、提出すること。（20分）
必携書（教科書販売） 『日本古典文学史』 4870155152 乾安代ら編 暁印書館
必携書（教科書販売以外） （参考書）諸作品のあらすじ整理に、角川ソフィア文庫の当該作品などを、ひとまず薦めておく。その他、授業中に指示する。
オフィスアワー 金曜日5時限
連絡先 k_nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。

文学 I I				単位数	2単位
授業コード	12120	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	遊佐 徹				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
中国文学における小説ジャンルについて、その成立過程と変遷、そして特徴を文体、主要モチーフ、近代化などに焦点を当てつつ通覧します。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 本来中国語である「小説」という言葉の原義を指摘できる。			知識・技能	
2	2 中国の小説の成立と発展過程を指摘できる。			知識・技能	
3	3 他言語文化圏の小説ジャンルとの共通点と相違点を把握し、文学における小説ジャンルの存在意義を指摘できる。			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	指名回答10%			1/2/3	
2	授業中に課す小課題20%			1/2/3	
3	期末テスト70%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス 2 魯迅からの旅 1、歴史的概観 3 魯迅からの旅 2、小説の原義と近代「小説」 4 文言と白話：中国文学における文学言語と小説 5 神話と物語と小説 6 事実か虚構か：六朝志怪小説、志人小説 7 唐代伝奇小説の文学性 8 庶民の物語の誕生：宋代に始まる変化 9 『三国志演義』の成立：白話小説の時代へ 10 四大奇書：明代傑作小説 11 歴史小説としての白話小説 12 移動する人々：白話小説のドラマの構造 13 短編小説の盛行 14 清代白話小説の特徴 15 中国近代「小説」の誕生：再び魯迅へ					

定期試験 16 試験
試験のフィードバックの方法 要求に応じて模範解答を開示します。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 この授業では、できる限り中国の小説作品を原文と翻訳の形式で読みます。受講者の皆さんは、事前に配布する作品資料をよく読んで出席してください。また、随時様々な質問を投げかけますので的確に答えられるよう予習、復習に励んでください。
必携書（教科書販売） 特にありません。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 漢和字典 <参考書等> 参考文献については授業中に紹介します。
オフィスアワー 担当教員は非常勤教員です。お問い合わせは以下のメールアドレスにお願いいたします。 yusa@cc.okayama-u.ac.jp
連絡先 yusa@cc.okayama-u.ac.jp
留意事項 欠席、遅刻、受講態度については厳しくチェックします。

文学ⅠⅤ				【単位数】	2単位
授業コード	12135	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	村中 季衣				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>国内外の児童文学作品及び絵本を鑑賞することを通して、「物語」のもつ力とそれを受容する読者の間に生じる読みのダイナミクスを学ぶ。毎回、テキストを手掛かりに国内外の作品を読み解いていく。また、創作のベースとなるメルヘンの構造についても、最初に学び、後の作品読解の手がかりになるようにする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 児童文学作品に関心を持ち、積極的に読書するとともに、それぞれの作品世界について自分なりの意見や世界観を持てるようになる。			主体性	
2	2. メルヘンの構造にも理解を深め、巷のメディアに翻弄されない児童文学作品の適切な選択ができるようになる。			思考・判断・表現力	
3	3. 読みあいの概要と方法を理解し、日常場面でコミュニケーションの一助とすることができる。			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の討論への参加 20% (到達目標3)			1/2/3	
2	レポート 80% (到達目標1, 2)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>現役の児童文学の実作者として、絵本や児童文学作品が創作過程において或いは編集過程においてどのような意図をもって創られていくのかを具体的に解き明かしながら、読者との接点について考えを広げていくことに役立てていく。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>①児童文学とは ②メルヘンの系譜その1：しらゆきひめ ③メルヘンの系譜その2：あかずきん ④メルヘンの系譜その3：ももたろう ⑤『ぼくはくまのままでいたかったのに』を中心に ⑥『しろいうさぎとくろいうさぎ』を中心に ⑦『はらぺこあおむし』を中心に ⑧『100万回生きたねこ』を中心に ⑨『じごくのそうべえ』を中心に ⑩文学教材の問題を考える：レオ・レオニ作品について ⑪翻訳児童文学の問題と可能性 ⑫文学と語り ⑬読書療法から読みあいへ ⑭読みあい体験 ⑮まとめ</p>					

定期試験
授業で学んだ作品を読み込む視点を生かして、自身で選んだ作品の分析と読みあい実践の振り返りをレポートにまとめ、14回目の講義終了時に提出する。
試験のフィードバックの方法
15週目の講義終了時に提出されたレポートの総括を記したペーパーを配布する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として毎回指示したテキスト部分を読んで指定のメモ用紙にまとめる（1時間）。 事後学習として事前のメモに加筆修正を加える（1時間）。授業最終日に、レポートと一緒にこのメモを提出する。
必携書（教科書販売）
<必携書> 子どもと絵本を読みあう、村中李衣、ぶどう社
必携書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業開始時に指示する
連絡先
murana@m.ndsu.ac.jp
留意事項

文学VI				単位数	2単位
授業コード	12138	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公、高田 ひかり				
時間割備考	8/22~8/25 (1限~4限)				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>世界で愛読され、映画化も話題になった、日本を代表するキリスト教作家遠藤周作(1923-1996)の『沈黙』と、イギリスの英文学者・キリスト教思想家のC.S.ルイス(Clive Staples Lewis, 1898-1963)の『ナルニア国物語』を取り上げる。キリスト教思想を根拠にした日英の世界文学の名作を読解し、そのテーマを自分の問題意識とも結び付けて主体的に考える授業である。</p> <p>本講義の前半では、英ガーディアン紙の「死ぬまでに読むべき必読小説」のリストにもあがる『沈黙』を取り上げ、その背後にある作者遠藤周作の挫折の人生と信仰体験を解説し、さらに日本キリシタン史や聖書の象徴等にも触れながら、主人公が挫折と屈辱の末に人間の苦しみの同伴者となるイエスと出会い、人生に何一つ無駄なものはないことに気づいてゆく魂のドラマを読み解く。</p> <p>本講義の後半では、「ナルニア国物語」シリーズの第1作目『ライオンと魔女』(原題The Lion, the Witch and the Wardrobe)を主なテキストとして取り扱い、人間の原罪、倫理の重要性、この世に生きることに伴う苦しみや痛みを認めつつも、キリストに従って生きることの喜びと希望をルイスがいかに表現しているかを考える。さらに、ルイスは文学作品以外にも、神学思想を一般読者に読みやすい形で伝える思想的著作を数多く残しており、神との関わりのうちにある「喜び」(“joy”)を探究することに端を発したルイスの信仰と神学についても学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	授業で取り上げたキリスト教作家の作品について、その時代背景や作家の聖書理解・キリスト教思想等を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	キリスト教文学作品を理解するために必要なキリスト教の基礎的な知識を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	授業で取り上げた作品のテーマについて自分の問題意識とも結び付けて主体的に考え、自分の読解を論理的に表現することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー 30%			3	
2	中間レポート 35%			1/2/3	
3	期末レポート 35%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 遠藤の生涯を信仰と文学を中心に概説(1~8 担当 山根道公) 2. 『沈黙』「まえがき」「1章」-作品の歴史的背景・切支丹迫害概説・父性的イエス像 3. 『沈黙』「2章」「3章」-かくれ切支丹の信仰・雨の象徴表現・弱者と強者の信仰 4. 『沈黙』「4章」-信徒の殉教と神の沈黙の問題・ユダの裏切りとイエスの愛の問題 5. 『沈黙』「5章」「6章」-罪について・キチジローの信仰・愛(アガペー)について 6. 『沈黙』「7章」「8章」-日本の精神風土とキリスト教の問題・母性的イエス像 7. 『沈黙』「9章」「切支丹屋敷役人日記」-新たな信仰共同体の声とその聖書の背景 8. 前半まとめ 9. ルイスの生涯とその作品について概説、福音書について(9~16 担当 高田ひかり) 10. 『ライオンと魔女』-罪のテーマに着目して 11. 『ライオンと魔女』-受肉、死と復活に着目して 12. 『ライオンと魔女』-色彩から読み解く 13. 『ライオンと魔女』-遊び、笑いのイメージ 14. ルイスの「喜び」の神学について 15. 「喜び」の神学とルイスの文学理論 16. 後半まとめ 期末レポート説明 					

定期試験 中間レポート・期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 『沈黙』と『ライオンと魔女』を、それぞれの授業の始まるまでに予習として一読し、わからない用語など自分で調べておくこと。 レポートの参考になるように毎回の授業での考察や気づき等をまとめる復習をしておくこと。
必携書（教科書販売） 遠藤周作『沈黙』新潮社（新潮文庫） [ISBN: 978-4101-123158] C. S. ルイス『ライオンと魔女』、瀬田貞二・訳、岩波書店（岩波少年文庫） [ISBN: 978-4001140347]
必携書（教科書販売以外） 必携書 『聖書』（必ず持参すること） 参考書 C. S. ルイス『栄光の重み』（C. S. ルイス宗教著作集8）、西村徹訳、新教出版社、2004年。 C. S. ルイス『喜びのおとずれ：C. S. ルイス自叙伝』（富山房百貨文庫7）、早乙女忠・中村邦生訳、富山房、1994年。 遠藤周作『切支丹の里』中公文庫 山根道公『遠藤周作 その人生と「沈黙」』朝文社、2005年。
オフィスアワー 集中講義のため、質問・相談等は、授業終了後の休み時間、昼休みに受け付ける。また、随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに感想・質問等を書いてもらう。受講者は主体的に授業に臨むこと。

芸術 I				単位数	2単位
授業コード	12250	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	大谷 文彦				
時間割備考	8/22~8/25 (1限~3限)、8/26 (1限~4限)				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
本授業の概要					
<p>授業では、西洋音楽が中世以来のグレゴリオ聖歌を媒体に数百年かけて典礼・音楽両面から次第に形を変え発展していき、宗教改革以降、その媒体をコラール（プロテスタント賛美歌）に変えてなお進化し続けた様子を考察する。時限ごとの始めに、前半はグレゴリオ聖歌を1曲、後半はコラールを1曲歌い、中世のオルガナムやルネサンスのミサ曲、バロックの聖務日課や受難曲などをオリジナル楽器で鑑賞しながら、祈りのひとつとして民衆に受け入れられていった宗教音楽を味わっていく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	・グレゴリオ聖歌やコラール、中世からバロック期までの宗教音楽を考察して、その魅力を感じるとともに、該当期間の西洋音楽の変遷に興味を持つ。				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	・音楽に対する今まで知らなかった新しい視点に気づくことによって、物事を多角的に見る経験をする。				思考・判断・表現力/主体性
3	・期間中グレゴリオ聖歌を1曲、コラールを1曲覚えることができる。				主体性
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・授業中の関心・態度 (一日ごとの最後に提出してもらったレポートの内容) : 50%				1/2
2	・授業中の関心・態度 (レポート提出全5回一回の回数) : 25% (質問や発言の回数) : 15%				1/2/3
3	・聖歌暗譜唱 : 10%				3
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・その当時の演奏解釈による古楽演奏活動をしていたり、 ・カトリック信者として現在の日本のミサに関わっていたり、 ・スイスパールで古楽を学んだ経験や ・少年期に、教会でグレゴリオ聖歌を歌っていたという経験を活かして、実践に裏付けされた理論を展開する。 					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I グレゴリオ聖歌とその変遷					
1 グレゴリオ聖歌と教会旋法					
2 トロースとゼクウェンツィア					
II ポリフォニー音楽の発展					
3 定旋律とオルガナム					
4 ノートルダム楽派とモドゥスリズム					
5 定量記譜法					
6 ギョーム・ド・マショー					
III ルネサンスの音楽					
7 ギョーヌ・デュファイ					
8 フランドル楽派 ジョスカン・デ・プレ					
9 フランドル楽派 ヨハンネス・オケゲム					
IV 初期バロックのイタリア音楽					
10 カメラータとモノディー様式					
11 モンテヴェルディ「マドリガーレ集」					
12 " 「聖母マリアの夕べの祈り」					
V 後期バロックのドイツ音楽					
13 バッハ「マタイ受難曲」①					
14 " ②					
15 " ③					

定期試験 <ul style="list-style-type: none"> ・16時限目に聖歌歌唱の実技試験を暗譜で行う。歌の上手下手は問わない。 ・毎日の感想等をまとめた5回のレポート
試験のフィードバックの方法 1日（3時間分終了後）のレポートに対して次の時間（翌日）にコメントを行いながら授業を進める。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業に出て、眠らないでちゃんと聞いていれば、難易度は決して高くない。
必携書（教科書販売） <必携書> 「中世・ルネサンスの音楽」、皆川達夫、講談社学術文庫
必携書（教科書販売以外） それぞれの授業の前に、参考文献として楽譜等を配布する。
オフィスアワー 質問は授業中、またはレポートの中ですることができる。
連絡先 s8020@m.ndsu.ac.jp
留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度、楽譜が読めれば幸いだ。 ・講義中の飲食は慎むこと。 ・定員を超える場合は、初回に抽選を行うことがある。

芸術 I I I				単位数	2単位
授業コード	12270	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	池上 公平				
時間割備考	9/5~9/8 (1限~4限)				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>伝統的なヨーロッパの美術においては主題の過半がキリスト教のものであるが、それらを理解するためには、キリスト教に関する知識に加え、キリスト教主題がどのように表現されるか、その様相と歴史を知る必要がある。そして、それはヨーロッパ以外すなわちアジア・アフリカ・アメリカ大陸のキリスト教美術を理解する上でも必須のものである。本講義では、その基礎を学ぶ。ここで学ぶことは、美術にとどまらず、文学、音楽、演劇、ひいてはキリスト教そのものの理解にも役立つであろう。ただし、様々な制約があるため、イエス・キリストに関する主題のみを扱うこととしたい。また、日本におけるキリスト教受容の一側面として、いわゆるキリシタン美術および近代日本のキリスト教美術についても触れることとする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	イエス・キリストに関する主題を扱った美術作品を見て、その主題を理解し、説明することができる。			知識・技能	
2	ある主題の時代や地域による展開について理解し、説明することができる。			知識・技能	
3	日本におけるキリスト教の受容を通して、異文化の受容について関心を持ち、考えることができる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	主題とその典拠を正しく理解している。			1	
2	それぞれの主題の表現について、正しく理解している。			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス 2 キリストの表現 3 キリストの幼年時代1 (受胎告知) 4 キリストの幼年時代2 (降誕、羊飼いの礼拝、東方三博士の礼拝) 5 キリストの公生涯1 (キリストの洗礼、キリストの試練、ペトロとアンデレの召命) 6 キリストの公生涯2 (キリストの変容、法と鍵の授与) 7 キリストの公生涯3 (パンと魚の奇跡、カナの婚宴) 8 キリストの公生涯4 (ラザロの復活、シモンの家のキリスト) 9 キリストの受難1 (エルサレム入城、神殿からの商人追放、最後の晩餐、使徒たちの聖体拝領) 10 キリストの受難2 (使徒たちの足を洗うキリスト、ゲッセマネの祈り、キリストの逮捕、ペトロの否認、キリストの鞭打ち) 11 キリストの受難3 (キリストの磔刑) 12 キリストの復活 (十字架降下、ピエタ、キリストの墓を訪れる聖女たち、われに触れるな、エマオの晩餐、キリストの復活) 13 キリシタン美術 14 近代日本のキリスト教美術 15 まとめ					

定期試験 試験
試験のフィードバックの方法 試験終了後に解答例を配布する。小レポートにはできる限り授業時にコメントするが、時間の制約があるので、できない場合もあることをあらかじめ承知しておいてほしい。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 各回の内容について、参考文献の該当箇所を読んでおく。授業後には内容をまとめておき、小レポートに反映させること。 事前事後の学修について合計1時間程度をあてることが望ましい。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <参考書> 『聖書』（新共同訳が望ましいが、その他の訳でもかまわない。） 荒井献編『新約聖書外典』講談社 ジェイムズ・ホール『西洋美術解説事典』高階秀爾監修 河出書房新社 ピーター・マレイ、リンダ・マレイ『オックスフォードキリスト教美術・建築事典』中森義宗監訳 東信堂
オフィスアワー 質問は随時受け付ける。
連絡先 ikegamik@kyoritsu-wu.ac.jp
留意事項

芸術ⅠⅤ				単位数	2単位
授業コード	12280	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	龍澤 彩				
時間割備考	8/22～8/26オンデマンド遠隔、8/29～8/30（1限～4限）対面				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
本授業の概要					
日本美術史の入門講座。絵画を中心に、画題・テーマ別にさまざまな作品を取りあげ、日本の美術工芸品の表現について理解を深めることを目的とする。前半はモチーフがもつ重層的な意味に着目し、画題についての理解を深め、後半には物語絵を取りあげ、テキストがどのように視覚化されているかについて紹介していく。時代横断的に重要作品を提示し、制作年代や作者、媒体（画面形式など）による表現の差異や多様性を講じる。また、あわせて関連する展覧会の見方、作品鑑賞のポイントなどについても扱い、主体的に美術工芸品を理解する力を身につけることを目指す。					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	日本美術史の重要作品について、基本的な知識を運用できる。			知識・技能	
2	日本美術に関する知識や考えを、他者に説明できる。			思考・判断・表現力	
3	自ら主体的に、美術館や博物館での見学を実行できる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	各回の小テスト（リアクションペーパー）（40%）			1/2	
2	まとめレポート（60%）			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
集中講義1日目					
①【画題を知る】牡丹の美術（1）					
②【画題を知る】牡丹の美術（2）					
③【画題を知る】桜の美術					
④【画題を知る】水（海、川、雨、雪など）をモチーフにした美術					
集中講義2日目					
⑤【画題を知る】扇と美術工芸					
⑥【画題を知る】吉祥の表現					
⑦【画題を知る】動物の表現と物語絵					
集中講義3日目					
⑧【物語を絵で読む】源氏物語（1）					
⑨【物語を絵で読む】源氏物語（2）					
⑩【物語を絵で読む】源氏物語（3）					
⑪【物語を絵で読む】伊勢物語					
集中講義4日目					
⑫【物語を絵で読む】平家物語（1）					
⑬【物語を絵で読む】平家物語（2）					
⑭まとめ（作品鑑賞のポイントと展覧会の楽しみ方）					
⑮展覧会見学（美術館での見学を予定しています。詳細はmanaba等で告知します。シラバス「留意事項」も参照のこと）					

<p>定期試験</p> <p>講義1日目・2日目・3日目・4日目に、授業の理解度をみるための小テストを実施する。詳細はmanabaにて通知する。 講義全体を通じて学んだことを活かした最終レポートを出題する。詳細はmanabaにて通知する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>manabaに解答のポイントを掲載する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>シラバスを参考に、講義内容に関連する、日本美術史・日本文化史の概説書に目を通し、特に時代背景について大まかな知識を身につけておく。集中講義開始前に、最低1週間程度かけて通読しておくことよい。 事後学修として、関連する展覧会に足を運ぶことで、講義で学んだことが実践に生かされるであろう。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p>推薦する参考書：『日本美術史』、2014年、山下裕二・高岸輝監修、美術出版社（ISBN-10: 4568389070）</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>manabaを利用して質問に対応します。</p>
<p>連絡先</p> <p>ryusawa@kinjo-u.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>○講義日程（予定）について</p> <p>集中講義1日目：遠隔（オンデマンド） 集中講義2日目：遠隔（オンデマンド） ※8月22日～26日までの期間中にオンデマンドで学修できるよう、授業コンテンツを公開します。詳しくはmanabaで案内しますので、連絡に注意して下さい。</p> <p>集中講義3日目：8月29日 1時限～4時限（対面） 集中講義4日目：8月30日 1時限～4時限（対面）</p> <p>○学外見学について</p> <p>集中講義4日目の午後（3、4時限）に、学外での展覧会見学を予定しています。交通費等の費用は自己負担となりますのでご了承ください。 また、新型コロナウイルス感染症の状況により、見学を中止し、学内での講義に代替する可能性があります。</p>

歴史学ⅠⅡ				単位数	2単位
授業コード	12320	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	久野 洋				
時間割備考	歴史学Ⅰ・Ⅱは隔年開講				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業では、特に青年や少女に注目して、近現代の日本社会を考える。その際、同時代の映像や、「風立ちぬ」「火垂るの墓」(宮崎駿監督)といった映画作品を使って、下記の授業予定一覧に掲げたテーマを論じていく。具体的には、映画作品の時代描写も手がかりに、映像や史料をもとに近代以降の人びとが抱えた矛盾や葛藤に焦点を当て、そこから見える近現代日本社会の特徴を考察する。</p> <p>授業では、映画や文学などで扱われる「歴史」はあくまでフィクションであることに留意しつつ、歴史学が私たちにどのような知的体力を与えてくれるかという点を意識して進めたいと思う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	歴史学を学ぶ上での基本的な心構えと方法論を理解し、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	映像や史料を通して、近代日本社会に生きた人びとが抱えた矛盾や葛藤を具体的に読み取りし、そこから近現代の日本社会の特徴を考察・説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	現代社会が直面する諸問題について、歴史的経緯を踏まえて考え、自分の意見を整理することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末レポート 70%			1/2/3	
2	リアクションペーパー・授業への取り組み度 30%			1/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>基本的に以下の流れで進める予定だが、受講生の関心によっては変更もありえる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史家の仕事を考える① 2. 歴史家の仕事を考える② 3. 明治日本から大正日本へ 4. 明治・大正期の青年 5. 第一次世界大戦後の都市化・大衆社会化① 6. 第一次世界大戦後の都市化・大衆社会化② 7. 1920～1930年代の日本社会①：都市エリート青年と農村青年 8. 結核のロマン化と現実 9. 科学者と戦争 10. 「風立ちぬ」から考える近代日本社会 11. 戦間期の世界 12. 1920～1930年代の日本社会②：官僚の挑戦 13. 1920～1930年代の日本社会③：軍部の台頭 14. 戦時下の日本社会① 15. 戦時下の日本社会② 					

定期試験
期末レポートを課す。詳細は授業中に説明する。
試験のフィードバックの方法
授業中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容は継続的・論理的に展開するので、授業後には、講義内容について配布レジュメや参考文献をもとに自分なりに整理しておくこと（毎回2時間程度）。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項
授業で取り上げる対象・テーマは、現代に生きる私たちが直面する問題に通ずる部分も多い。現代社会の問題に対して常にアンテナを張り続けてほしい。レポートにおいては、過去・現在の社会について考えをめぐらせ、自分の言葉で論理的に書いてるものを求める。毎回のリアクションペーパーも、これらのことを意識して書くこと。

歴史学 I I I				単位数	2単位
授業コード	12330	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	鈴木 真				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
近代に至るまでの東アジア世界の国際秩序のあり方を、おもに中国王朝・皇帝の視点から講義する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	近代に至るまでの東アジア世界の国際秩序がどのように形成され、また時代によってどのように変化していったのか、その特徴について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	前近代の東アジア世界の国々が、現代の国際社会とは異なる理論・秩序によって結びついていたこと、それが近代以降にどのような影響を及ぼしていったのかについて説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	また上記のような理論・秩序の思想的背景を、儒学や皇帝支配との関係から説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小レポート：10%			1/2	
2	期末試験：90% (持込み不可の長文論述試験を、対面でおこなう)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 天子と「中国」 2. 華と夷を分けるもの 3. 東アジア世界の皇帝と冊封（～5世紀） 4. 東アジア世界の皇帝と冊封（～9世紀） 5. 東アジア世界の皇帝と冊封（～13世紀） 6. 海禁と華夷秩序の再編 7. 南海遠征と朝貢国の拡大 8. 北虜南倭の時代 9. 東アジア世界における銀 10. 華夷変態と『韃靼漂流記』 11. 朝鮮王朝と小中華 12. 朝鮮燕行使と朝鮮通信使 13. 東アジア世界における国際秩序の崩壊 14. 東アジア世界における国際秩序の再編成 15. まとめ 					

定期試験 第16回に期末試験（長文論述形式・持込不可・対面）をおこなう。
試験のフィードバックの方法 解説をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回資料プリントを配付するので、講義の前後に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 参考文献は講義中に適宜紹介する。また、毎回資料プリントを配付する。
オフィスアワー 月曜日の4時限（14:45～16:15）
連絡先 suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
留意事項 講義中、指名しての発言を求められることがある。 成績評価、および出欠管理は厳格におこなう。 期末試験は、長文の論述形式でおこなう（持込不可・対面）。ただし状況によってはレポート課題に変更することもある。

歴史学ⅠⅤ				単位数	2単位
授業コード	12340	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	轟木 広太郎				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
前半は大学の歴史学への導入として、古代都市の遺跡を材料に、古代ローマ人の社会と生活について紹介するとともに、16世紀以降の西欧を中心とした世界のグローバル化を説明する理論である「世界システム論」を紹介する。後半は、社会史の具体例として、「性愛」と「富と貧困」のテーマを取り上げる。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	高校の世界史科目を発展させて、新たな世界史像の知識と方法論を獲得する。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	現代とは異なる過去の世界の考え方や感じ方、行動様式、慣習などについて、社会史の方法論に習熟する。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点30%			1/2	
2	レポート70% ただし、受講者が少なければ試験に代えることもある。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. インTRODクシヨN 2. 古代遺跡から見る古代ローマ：生活の諸相 3. 古代遺跡から見る古代ローマ 4. 世界システム論：理論のあらし 5. 世界システム論：ヘゲモニー国家 6. 世界システム論：世界商品 7. 世界システム論：ヨーロッパの生活革命 8. 世界システム論：南北問題 9. 性愛の社会史：初期キリスト教 10. 性愛の社会史：中世 11. 性愛の社会史：近世 12. 性愛の社会史：近現代 13. 富と貧困の社会史：初期キリスト教 14. 富と貧困の社会史：中世 15. 富と貧困の社会史：近世					

定期試験 レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） 毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

日本国憲法Ⅰ [英日現]				単位数	2単位
授業コード	12380	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	浅沼 友恵				
時間割備考	1年次 文学部対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>テーマ「平和と人権」近代憲法と呼ばれるためには、なによりも人権の保障がなければならない。また、日本国憲法が、世界に誇れるのは平和主義である。平和主義と人権の有機的な相互関係を明らかにしたい。また、この理念が統治機構にどのように反映しているかを論じる。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本国憲法の理念をその原点から正しく把握することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	基本的人権や平和主義、国民主権を理解するとともに統治機構とその構造、関係性について理解し、平和や人権を希求することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	個人としてあるいは教職に就く人間として憲法を学ぶことは、よりよい社会の実現につながることを理解し、実践できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業を視聴して、レポートを提出していただきます。提出されたレポートの内容と期末テストを合わせて、総合的に理解度を判定します。			1/2/3	
2	単位の認定には全体の3分の2以上の授業レポートの提出と期末テスト(筆記試験)の両方が必要です。到達目標と照らし合わせて、評価を出します。			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>I. 日本国憲法の沿革</p> <p>① イントロダクション</p> <p>② 日本国憲法誕生の背景</p> <p>II. 日本国憲法の三大理念と幸福追求権</p> <p>③ 基本的人権・国民主権</p> <p>④ 人権の始期・憲法の私人間効力</p> <p>⑤ 幸福追求権・自己決定権</p> <p>III. 自由権</p> <p>⑥ 思想・信条の自由・信教の自由・目的効果論・表現の自由</p> <p>⑦ 知る権利・教育の自由・人身の自由・</p> <p>⑧ 経済的自由権・自由権に対する規制論</p> <p>IV. 法の下での平等</p> <p>⑨ 平等権</p> <p>V. 社会権と憲法における女性の項目</p> <p>⑩ 生存権・憲法における家族</p> <p>VI. 平和主義</p> <p>⑪ 平和主義(前文・9条の解釈)</p> <p>⑫ 平和主義(自衛隊・PKO)</p> <p>VII. 日本の統治機構</p> <p>⑬ 三権分立・三審制</p> <p>⑭ 両議院制・間接民主制</p> <p>⑮ 国民投票</p> <p>VIII. 期末テストの実施(第16回目)と解答・解説</p>					

定期試験 第16回目に定期試験（筆記式）を実施
試験のフィードバックの方法 定期試験終了後、解答・解説を講義する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業予定は上記の通りなので、事前に教科書を熟読しておくこと。（30分程度）期末になると膨大な量になるので、その都度覚えるように復習をしましょう。（復習30分程度） また、毎日のニュースに関心を持つこと。高校までの教科書を復習することも有益。
必携書（教科書販売） <必携書> 『平和と人権の憲法学』，葛生栄二郎ほか 法律文化社，ISBN-13： 978- 4589033307
必携書（教科書販売以外） なし。
オフィスアワー 授業前後に質問を受けつけます。
連絡先 Email:s8001@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本国憲法Ⅰ [人見食]				単位数	2単位
授業コード	12390	科目ナンバリング	11070-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	浅沼 友恵				
時間割備考	1年次 人間生活学部対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
テーマ「平和と人権」近代憲法と呼ばれるためには、なによりも人権の保障がなければならない。また、日本国憲法が、世界に誇れるのは平和主義である。平和主義と人権の有機的な相互関係を明らかにしたい。また、この理念が統治機構にどのように反映しているかを論じる。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本国憲法の理念をその原点から正しく把握することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	基本的人権や平和主義、国民主権を理解するとともに統治機構とその構造、関係性について理解し、平和や人権を希求することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	個人としてあるいは教職に就く人間として憲法を学ぶことは、よりよい社会の実現につながることを理解し、実践できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業を視聴して、レポートを提出していただきます。提出されたレポートの内容と期末テストを合わせて、総合的に理解度を判定します。			1/2/3	
2	単位の認定には全体の3分の2以上の授業レポートの提出と期末テスト(筆記試験)の両方が必要です。到達目標と照らし合わせて、評価を出します。			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I. 日本国憲法の沿革					
① イントロダクション					
② 日本国憲法誕生の背景					
II. 日本国憲法の三大理念と幸福追求権					
③ 基本的人権・国民主権					
④ 人権の始期・憲法の私人間効力					
⑤ 幸福追求権・自己決定権					
III. 自由権					
⑥ 思想・信条の自由・信教の自由・目的効果論・表現の自由					
⑦ 知る権利・教育の自由・人身の自由					
⑧ 経済的自由権・自由権に対する規制論					
IV. 法の下での平等					
⑨ 平等権					
V. 社会権と憲法における女性の項目					
⑩ 生存権・憲法における家族					
VI. 平和主義					
⑪ 平和主義(前文・9条の解釈)					
⑫ 平和主義(自衛隊・PKO)					
VII. 日本の統治機構					
⑬ 三権分立・三審制					
⑭ 両議院制・間接民主制					
⑮ 国民投票					
VIII. 期末テストの実施(第16回目)と解答・解説					

定期試験 第16回目に定期試験（記述式）を実施
試験のフィードバックの方法 定期試験終了後、解答・解説を講義する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業予定は上記の通りなので、事前に教科書を熟読しておくこと。（30分程度） 期末になると膨大な量になるので、その都度覚えるように復習をしましょう。（復習30分程度） また、毎日のニュースに関心を持つこと。高校までの教科書を復習することも有益。
必携書（教科書販売） <必携書> 『平和と人権の憲法学』，葛生栄二郎ほか 法律文化社，ISBN-13： 978- 4589033307
必携書（教科書販売以外） なし。
オフィスアワー 授業前後に質問を受けつけます。
連絡先 Email:s8001@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本国憲法 I I				【単位数	2単位
授業コード	12400	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	高橋 正徳				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業では、権利の章典と統治機構から成る近代憲法のうち、統治機構を中心に学ぶ。とくに、近代国家誕生以降の権力分立の意義、統治機構の具体的な仕組みなどについて理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	人権保障を確保するための統治機構の原則である権力分立の意義についての理解を通じて、実社会の中で主権者として考え、行動することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小テスト：30%			1	
2	定期試験：70%			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 憲法と近代立憲主義 2 基本的人権と統治機構 3 国民主権-民主主義の基本原則 4 国民主権-国民主権と選挙 5 立法権-国会の組織 6 立法権-国会の権能 7 立法権-国政における議会の位置 8 行政権-内閣の地位および組織 9 行政権-内閣の権限および責任 10 行政権-行政権の課題 11 司法権-司法権の意義 12 司法権-司法権の組織と運用 13 司法権-違憲審査制と憲法訴訟 14 地方自治-地方公共団体 15 地方自治-住民の権利					

<p>定期試験 16週目に筆記試験を行う。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 小テスト（計2回）の各実施後に、正解を配付する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）次週に予定されているテーマに関して、教科書の該当部分を熟読し、また、新聞を読んで、日々の政治や社会の動きを把握しておくこと（約1時間）。 （復習）授業を通じて得られた知見をもとに、当該テーマについてさらに理解を深めること（約1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） ＜必携書＞（教科書販売） 『高校から大学への憲法〔第2版〕』， 2016年， ISBN 978-4-589-03741-1， 君塚正臣編， 法律文化社</p>
<p>必携書（教科書販売以外） ＜参考書等＞ 小型の六法（もしあれば、どれでもよい） 授業の中で、適宜、レジュメを配付する。</p>
<p>オフィスアワー 質問は、授業後に直接、または随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sho-tok@cc.okayama-u.ac.jp （◎を@に変換して送信してください）</p>
<p>留意事項</p>

法律学I				単位数	2単位
授業コード	12410	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山本 賢昌				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>法律学Iでは、日本国憲法、行政法、民法の財産法を学ぶ。なかでも日常生活と深いかわりのある民法の財産法を中心に学ぶ。憲法については、日本国憲法の基本原理や日本の統治機構、基本的人権の保障の在り方を理解する。行政法については、行政法とはなにか、法律による行政とは何か、行政救済法の概略について理解する。民法については、民法第1編総則、第2編物権、第3編債権について、その内容を理解し、財産法上の重要な論点を考察する。さらに、具体的事例を検討することにより、社会生活における民法(財産法)の作用や役割について学び、今後の社会生活に資することを目的とする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本国憲法の基本原理を理解し、憲法で定められた統治機構の在り方や基本的人権の保障の在り方を理解し、ひとりの主権者として、主体的に日本の政治に関わり、社会的活動を行うことができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	行政と市民の関係を理解し、行政によって市民の権利が侵害された場合の救済方法を知ることにより、そのような立場に置かれた場合に的確な行動ができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	民法の財産法の各条文の立法趣旨や内容を理解し、社会生活の具体的場面において、民法がどのように適用されるのかを的確に判断できるようになり、日常生活において自己の財産上の権利利益を守れるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度			1/2/3	
2	期末試験			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>弁護士としての実務経験を活かし、憲法・行政法・民法に関する具体的事件の事例を授業内容に織り込むことによって、それぞれの法が具体的な場面でどのように事件の解決のために適用されるのかを学生に理解してもらう。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>1 日本国憲法、基本原理の理解 2 行政法、概要、法律による行政の原理、行政救済法 3 民法、第1編総則、通則、人、法人 4 民法、第1編総則、物、法律行為(意思表示) 5 民法、第1編総則、法律行為(代理、条件、期間、時効) 6 民法、第2編物権、占有権、所有権 7 民法、第2編物権、地上権、永小作権、地役権 8 民法、第2編物権、留置権、先取特権、質権、抵当権 9 民法、第3編債権、総則 10 民法、第3編債権、契約(総則) 11 民法、第3編債権、契約(贈与、売買、交換) 12 民法、第3編債権、契約(消費貸借、使用貸借、賃貸借用) 13 民法、第3編債権、契約(雇用、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解) 14 民法、第3編債権、事務管理、不当利得、不法行為 15 定期試験 16 定期試験講評</p>					

定期試験
試験のフィードバックの方法 定期試験の後にその講評を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習として、次の講義の予定部分の法律の条文にざっと目を通しておく（30分～1時間程度）。 復習として、講義で配布する資料を読み、小問題を解き解説を読む（30分～1時間程度）
必携書（教科書販売） 『デイリー六法令和4年度版』三省堂
必携書（教科書販売以外）
オフィスアワー 質問は授業の後に受け付ける。
連絡先 aek06103@nifty.com
留意事項

法律学II				単位数	2単位
授業コード	12411	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山本 賢昌				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
民法の家族法、刑法を学ぶ。民法のうち、第4編親族、第5編相続について、その内容を解説し、家族法上の重要な論点を個別的に考察する。さらに、具体的事例を検討することにより、社会生活における民法(家族法)の作用や役割について理解し、今後の夫婦・親子・家族・親族の在り方を考察する。刑法については、刑法の基本原則やしきみ、どのような行為が罪として定められ、どのような刑罰を科されるのかについて学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	民法の家族法の各条文の立法趣旨や内容を理解し、社会生活や家庭生活の具体的場面において、民法がどのように適用されるのかを的確に判断できるようになり、日常生活において自己の家族法上の権利利益を守れるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	刑法の基本原則を理解し、どのような行為がどのような罪に該当し、どのような刑罰を受けるのかを理解する。日常生活において、自らの行為が刑事罰の対象となるようなものであるかどうか判断できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度			1/2	
2	期末試験			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
弁護士としての実務経験を活かし、民法・刑法に関する具体的な事件の事例を授業内容に織り込むことによって、それぞれの法が具体的な場面でどのように事件の解決のために適用されるのかを学生に理解してもらう。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 民法、第3編親族、総則、婚姻(要件) 2 民法、第3編親族、婚姻(要件) 3 民法、第3編親族、婚姻(婚約、内縁) 4 民法、第3編親族、婚姻(効力) 5 民法、第3編親族、婚姻(離婚1) 6 民法、第3編親族、婚姻(離婚2) 7 民法、第3編親族、親子(実子) 8 民法、第3編親族、親子(養子) 9 民法、第3編親族、親権、後見、保佐及び補助、扶養 10 民法、第4編相続、総則、相続人 11 民法、第4編相続、効力、承認及び放棄、相続人の不存在 12 民法、第4編相続、遺言、配偶者の居住の権利、遺留分、特別の寄与 13 刑法、刑法の基本原則、第1編総則 14 刑法、第2編罪 15 定期試験 16 定期試験講評					

定期試験
試験のフィードバックの方法 定期試験の後にその講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習として、次の講義の予定部分の法律の条文にざっと目を通しておく（30分～1時間程度）。 復習として、講義で配布する資料を読み、小問題を解き解説を読む（30分～1時間程度）。
必携書（教科書販売） 『デイリー六法令和4年度版』三省堂
必携書（教科書販売以外）
オフィスアワー 質問は授業の後に受け付ける
連絡先 aek06103@nifty.com
留意事項

社会学				単位数	2単位
授業コード	12440	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	中山 ちなみ				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本講義では、私たちの身近で起こっている具体的な現象や社会問題を事例として取り上げ、それらを社会学の知見と結びつけて考えることにより、社会学の基礎的な理論や知識を修得することをめざす。社会的なものの方、考え方を学ぶことで、今まで自分では気づいていなかったこと、「あたりまえ」と思っていたことが、別の見え方をしてくるという社会学のおもしろさ・難しさを、少しでも感じ取ってもらいたい。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	①社会学とは、何のための、どのような学問であるかということについて、自分なりの言葉で述べることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	②社会学が扱う多様な対象・領域に関心を持つことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	③社会事象を分析・説明・解釈する力を身につけ、向上させる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	④自分を取り巻くさまざまな「社会」で生じている問題を発見することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	⑤自分自身が「社会」とつながっている社会的存在であることを理解し、それを自分の言葉で説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末筆記試験：80%			1/2/3/4/5	
2	レポート・提出物：10%			2/3/4	
3	毎回の授業後のリアクションペーパー：10%			1/2/3/4/5	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. インTRODクシヨN 2. 社会的存在としての人間 3. アイデンティティ 4. ジェンダー 5. 社会の現状と動向を把握する ——データの読み方—— 6. ライフコースと家族 (1) 7. ライフコースと家族 (2) 8. 社会の多様な局面をとらえる ——映画を題材に—— 9. 都市の生活と人間関係 (1) 10. 都市の生活と人間関係 (2) 11. 社会規範 12. 同調行動と逸脱行動 13. 社会階層と平等 14. 権力 15. まとめ					

定期試験 期末筆記試験
試験のフィードバックの方法 試験終了時に、解答の一部を口頭で伝える。また、試験後の問い合わせに対応する。 提出物については、授業中に全体の講評をし、個別の問い合わせにも対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにしていくとともに、授業で得た知見を実際の社会事象に適用し、説明しようとする姿勢をぜひ身につけてもらいたい。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 講義時間中に随時紹介する。
オフィスアワー オフィスアワーは設けない。 研究室で質問や相談等をした場合は、事前にメールで予約をしてください。
連絡先 研究室電話番号：086-252-7102 メールでの問い合わせは、nakayama@post.ndsu.ac.jp宛に送ってください。
留意事項 授業で紹介した事象や概念をただ覚えるだけの受け身的な態度ではなく、社会学的な見方をすることによって、自分の身の周りで起こっている問題がどのように分析・説明できるのかということを考えながら、能動的・積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。 質問等は授業終了後に対応する。授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。

心理学 I I				単位数	2単位
授業コード	12510	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	西 隆太郎				
時間割備考	2017年度以前入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>この授業では、臨床心理学の基礎を概説します。カウンセリング、教育、保育などの場で、人と人が出会い、ともに成長していくための心理学です。臨床心理学の基礎を幅広く扱っていきませんが、中でも大事にしたいことは、「相互性の観点」と「物語」です。カウンセラー自身も、相手と出会って成長していること。教えた内容そのものよりも、自由に語り合った夢の方に意味があること。子どもたちと出会った実例なども紹介しながら、心について考えていきます。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理学・カウンセリング理論の基礎を理解し、説明できること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	臨床心理学の観点から、「出会うこと、ともに成長すること」に関するテーマを選び、文献・資料を踏まえながら、自分自身の考察を深めてレポートをまとめること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	各回のコメント 70%			1/2	
2	期末レポート 30% (必須) ただし単位取得のためには、期末レポートを必ず提出してください。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、心理学・心理療法についての実際理解を深めます。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か 2. 臨床心理学の方法論について 3. 心をどう見るか - 力動論と行動論 4. カウンセリングの考え方 5. 行動という通路 - 行動療法 6. ありのままの私 - 来談者中心療法 7. 子どもと出会う - 遊戯療法 8. 環境と関係性 - 精神分析療法 9. 心と物語 - 夢の分析 10. 語られる言葉をどう聴くか - コミュニケーションの理解 11. 人間の発達 - 人生の歴史とその意味 12. 家族関係と社会の影響 13. 教育・保育と心理学 14. 心の「病」について 15. 生涯発達と個性化 					

定期試験 期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法 期末レポート提出後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。
必携書（教科書販売） なし。
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 毎回の講義でお伝えします。図書館1Fに西の授業に関する指定図書コーナーを設けていますので、手に取ってみてください。
オフィスアワー オフィスアワー 金曜日2時限
連絡先 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学II (臨床心理学概論)				単位数	2単位
授業コード	12511	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	西 隆太郎				
時間割備考	2018年度以降入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>この授業では、臨床心理学の基礎を概説します。カウンセリング、教育、保育などの場で、人と人が出会い、ともに成長していくための心理学です。臨床心理学の基礎を幅広く扱っていきますが、中でも大事にしたいことは、「相互性の観点」と「物語」です。カウンセラー自身も、相手と出会って成長していること。教えた内容そのものよりも、自由に語り合った夢の方に意味があること。子どもたちと出会った事例など、映像なども使用しながら、心について考えていきます。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	臨床心理学・カウンセリング理論の基礎を理解し、説明できること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	臨床心理学の観点から、「出会うこと、ともに成長すること」に関するテーマを選び、文献・資料を踏まえながら、自分自身の考察を深めてレポートをまとめること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	各回のコメント 70%			1/2	
2	期末レポート 30% (必須) 単位取得のためには、期末レポートを必ず提出してください。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、心理学・心理療法についての実際的理解を深めます。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か 2. 臨床心理学の方法論について 3. 心をどう見るか - 力動論と行動論 4. カウンセリングの考え方 5. 行動という通路 - 行動療法 6. ありのままの私 - 来談者中心療法 7. 子どもと出会う - 遊戯療法 8. 環境と関係性 - 精神分析療法 9. 心と物語 - 夢の分析 10. 語られる言葉をどう聴くか - コミュニケーションの理解 11. 人間の発達 - 人生の歴史とその意味 12. 家族関係と社会の影響 13. 教育・保育と心理学 14. 心の「病」について 15. 生涯発達と個性化 					

定期試験 期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法 期末レポート提出後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。
必携書（教科書販売） なし。
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 毎回の講義でお伝えします。図書館1Fに西の授業に関する指定図書コーナーを設けていますので、手に取ってみてください。
オフィスアワー オフィスアワー 金曜日2時限
連絡先 授業全般についての連絡は下記まで。 西 隆太郎 nishii@post.ndsu.ac.jp
留意事項 今年度については本授業の定員を100名とし、これを超えた場合は「N抽選」とします。抽選の際は、4年生を優先します。

心理学 I I I				単位数	2単位
授業コード	12520	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	多田 志麻子				
時間割備考	2017年度以前入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>健康の維持増進、病気の予防のための心理学の基礎および実践の知識を理解する。 授業では、健康に関する心の仕組みや働きを学ぶ。また、心理テスト等を実施し、自ら体験しながら、自己を知り、自らの健康をよりよくコントロールできるようにする。さらに、心の健康教育としてストレスマネジメントについて理論やスキルを習得する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	健康に関する心理学の基礎的知識を説明できる。			知識・技能	
2	自己を振り返り、自らの健康をよりよくコントロールできる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	心の健康教育に関する実践方法を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	定期試験：55%			1/2/3	
2	小テスト：20%			1/3	
3	授業への取り組み：25%			2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 発達と健康に関する特徴 ①新生児期・乳幼児期 2 発達と健康に関する特徴 ②児童期・青年期 3 発達と健康に関する特徴 ③成人期・老年期 4 健康行動の基礎 5 フラストレーション 6 ストレスと健康 7 パーソナリティと健康 8 自己理解 9 他者理解 10 発達障害と支援 11 災害時の心理支援 12 心の健康教育 13 ストレスマネジメント ① 14 ストレスマネジメント ② 15 まとめ					

定期試験 16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法 試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業後、配布資料とノートを見直し、復習し、次の授業に臨む（約30分）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 毎回の授業で資料を配布する。 参考書は授業中に提示する。
オフィスアワー 質問は授業終了後またはメールで受ける。
連絡先 s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学III (健康・医療心理学)				単位数	2単位
授業コード	12521	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	多田 志麻子				
時間割備考	2018年度以降入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>健康の維持増進、病気の予防のための心理学の基礎および実践の知識を理解する。 授業では、健康に関する心の仕組みや働きを学ぶ。また、心理テスト等を実施し、自ら体験しながら、自己を知り、自らの健康をよりよくコントロールできるようにする。さらに、心の健康教育としてストレスマネジメントについて理論やスキルを習得する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	健康に関する心理学の基礎的知識を説明できる。			知識・技能	
2	自己を振り返り、自らの健康をよりよくコントロールできる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	心の健康教育に関する実践方法を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	定期試験：55%			1/2/3	
2	小テスト：20%			1/3	
3	授業への取り組み：25%			2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 発達と健康に関する特徴 ①新生児期・乳幼児期 2 発達と健康に関する特徴 ②児童期・青年期 3 発達と健康に関する特徴 ③成人期・老年期 4 健康行動の基礎 5 フラストレーション 6 ストレスと健康 7 パーソナリティと健康 8 自己理解 9 他者理解 10 発達障害と支援 11 災害時の心理支援 12 心の健康教育 13 ストレスマネジメント ① 14 ストレスマネジメント ② 15 まとめ					

定期試験 16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法 試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業後、配布資料とノートを見直し、復習し、次の授業に臨む（約30分）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 毎回の授業で資料を配布する。 参考書は授業中に提示する。
オフィスアワー 質問は授業終了後またはメールで受ける。
連絡先 s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項

情報学I				単位数	2単位
授業コード	12530	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	大東 正虎				
時間割備考	2021年度以降入学生対象。2020年度入学生は情報科目。				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本講義では、情報リテラシーを学習する。大学生活における情報活用は、主にレポート・論文の作成やゼミでのプレゼンテーションの際に求められる。本講義では、課題解決のための効果的な情報収集、情報の整理、分析方法を学ぶ。また、その成果をレポート・論文やプレゼンテーションによって表現するための方法を学ぶ。さらに、レポート・論文における情報活用、メールやインターネットを利用する際のモラルを学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	情報収集の特徴を簡潔に説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	表計算ソフトを使ってデータを整理することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ワープロソフトを使ってレポート・論文の構成を組むことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	プレゼンテーションソフトの機能を有効に使うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	情報モラルを簡潔に説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題50%			1/2/3/4/5	
2	定期試験50%			1/2/3/4/5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの機能と基本操作 2. 情報収集手段の種類と特徴 3. 情報収集(図書館の活用) 4. 情報収集(オープンデータの活用) 5. エクセルの基本操作 6. 表作成(データを扱い、整理する) 7. グラフ作成(作図して結果を説明) 8. ワードの基本操作 9. レポート・論文の構成・ページ設定 10. レポート・論文の脚注・参考文献 11. プレゼンテーション技法 12. プレゼンテーション実践 13. 情報モラル(情報活用の注意) 14. 情報モラル(メールやインターネットの注意) 15. 総括 					

<p>定期試験 16週目に筆記試験と実技試験を行う。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 課題については講義時に解説する。定期試験については、manaba folio 等でコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：配布されたプリントの内容を理解すること（約30分） 復習：講義内容について理解を深め、応用問題に取り組むこと（約1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） なし。講義の際にプリントを配布する。</p>
<p>オフィスアワー 月曜日 4限。またはメールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 daito@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 情報学Ⅰでは情報リテラシーを、情報学Ⅱではデータサイエンスを扱う。 いずれも初歩から始めるので、どちらを先に履修してもかまわない。 また、どちらか一方だけを履修してもよい。 毎回の出席が大前提、毎回USBメモリなどの保存用メディアを必ず持参すること。 コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。 定員を超えた場合は、初回講義で抽選を行い、履修可能な学生を決定する。</p>

情報学II				単位数	2単位
授業コード	12535	科目ナンバリング	110Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	大東 正虎				
時間割備考	2021年度以降入学生対象。2020年度以降入学生は情報科目。				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本講義では、データサイエンスの基礎を学習する。実際にデータを扱いながら、整理、分析方法を学ぶ。また、その結果を読み取る力を身につける。さらに、プログラミングを通じてAIの仕組みを理解し、活用法や業務における役割を学ぶ。データの取り扱いにあたっては、個人情報の管理や利用に注意が必要があることから、これらについても学習する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	データサイエンスを簡潔に説明できる。			知識・技能	
2	整理された情報を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	プログラミングをすることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	機械学習を簡潔に説明することができる。			知識・技能	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題 (50%)			1/2/3/4	
2	定期試験 (50%)			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスの概要と活用領域 2. コンピュータ利用と社会の変化 3. オープンソース(データ)の種類と用途 4. AI、データサイエンスの利用事例 5. データの収集と整理 6. 表による整理とその意義 7. グラフ作成とその意義 8. 統計学によってデータの特徴を理解 9. プログラミング (python) の基本 10. AI技術のひとつである機械学習の基礎 11. 企業で活用される機械学習の理解 12. 実データを用いた機械学習 13. 個人情報の管理と利用 14. 情報の性質と利活用の注意 15. 総括 					

定期試験 16週目に筆記試験と実技試験を行う。
試験のフィードバックの方法 課題については講義時に解説する。定期試験についてはmanaba folio 等でコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：配布されたプリントの内容を理解すること（約30分） 復習：講義内容について理解を深め、応用問題に取り組むこと（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） なし。講義の際にプリントを配布する。
オフィスアワー 月曜日 4限。またはメールで受け付ける。
連絡先 daito@m.ndsu.ac.jp
留意事項 情報学Ⅰでは情報リテラシーを、情報学Ⅱではデータサイエンスを扱う。 いずれも初歩から始めるので、どちらを先に履修してもかまわない。 また、どちらか一方だけを履修してもよい。 毎回の出席が大前提、毎回USBメモリなどの保存用メディアを必ず持参すること。 コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。 定員を超えた場合は、初回講義で抽選を行い、履修可能な学生を決定する。

化学I				単位数	2単位
授業コード	12580	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森山 圭				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>私たちの身の回りに存在するものは全て化学物質で構成されており、その性質の多くは化学を理解することで説明できる。例えばなぜその服の色は赤に見えるのか、なぜその医薬品は頭痛に効くのか、などである。本講義では、まず化学の基礎を理解した上で、身の回りの様々な現象を化学の知識で説明できるようになることを目的とする。講義では、グループディスカッションやsli. doを用いた学生-講師間の対話を多用し、学生が受け身にならず積極的に情報発信を行うことを促す。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	化学物質を構成する基本的な要素(原子・分子)の構造と性質について説明できる。			知識・技能	
2	身の回りの現象について、化学的な知識と関連付けて理解し、説明できる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末試験(70%)			1/2	
2	受講態度(30%)			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>大手製薬メーカーにおいて医薬品の研究開発に5年半の間従事し、その間、医薬品の化学構造とその効果効能の関係について深く探求した。この経験をもとに、いくつかの実例を挙げながら、学生に薬の化学構造と効果の関係の理解を促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>1 インTRODakション~化学が何の役に立つ?~ 2 化学の基礎(1) 原子の構造、分子の構造 3 化学の基礎(2) 化学結合、化学反応 4 化学の基礎(3) 無機化合物と有機化合物 5 生物と無生物 6 生体の化学 7 医薬品の化学 8 医薬品の研究開発 9 身の回りの化学(1) 鉛筆とダイヤモンド 10 身の回りの化学(2) プラスチック 11 身の回りの化学(3) アルコール 12 身の回りの化学(4) 電池 13 身の回りの化学(5) 色素 14 身の回りの化学(6) 西洋薬 15 身の回りの化学(7) 漢方薬</p>					

定期試験
16週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されているテーマに関して、インターネット等を利用して調査しておくこと（約30分）。
必携書（教科書販売）
「ニュートン式超図解 最強に面白い！！化学」, 2020年, ISBN 978-4-315-52202-0, 桜井 弘 監修, ニュートンプレス
必携書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問はメール等で随時受け付ける。
連絡先
moriyama@shujitsu.ac.jp
留意事項

化学 I I				単位数	2単位
授業コード	12581	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	稲垣 賢二				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
生化学は、生命現象のしくみを理解する学問です。したがって「人は食べ物からどうやってエネルギーを得ているのか？」など、文系の人にとっても、健康な毎日を過ごすためにとても大切なことです。暮らしに身近な糖やアミノ酸、ビタミンや核酸のかたちやはたらきを学び、上手に栄養を摂取して健康に生きるための知識を学習します。この授業は「生化学」の入門講義として行います。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	糖質、脂質、アミノ酸、核酸など生体物質の構造と機能を学習することで、それらの生理的意義に対する理解を深め、生化学に関する知識を広げ、説明できる。			知識・技能	
2	身の回りの現象について、化学的な知識と関連付けて理解し、説明できる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末試験(40%)			1/2	
2	受講態度、小テスト、レポートなど(60%)			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義の概要					
2 生命科学研究の歴史					
3 細胞とは 原核生物と真核生物					
4 糖質の構造と機能 単糖の構造と性質					
5 多糖類の種類と性質					
6 脂質の構造と機能 脂肪酸の構造と性質					
7 アミノ酸の構造と機能					
8 蛋白質の構造と機能					
9 "					
10 ビタミンと補酵素					
11 酵素の種類と性質					
12 "					
13 ヌクレオチドの構造と機能					
14 DNAとRNA "					
15 遺伝子操作技術と現代					

定期試験
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後、模範解答の説明を行う予定。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、予習をしておくこと（1時間）。
必携書（教科書販売）
「はじめての生化学 第2版」 ISBN:978-4-7598-1589-4, 平澤栄次 著, 化学同人
必携書（教科書販売以外）
〈参考書〉「これだけ！生化学 第2版」, ISBN:978-4-7980-6410-9, 稲垣賢二 監修 生化学若い研究者の会 著, 秀和システム 〈参考書〉「生理学・生化学につながる ていねいな化学」, ISBN:978-4-7581-2100-2, 著者 白戸亮吉, 小川由香里, 鈴木研太, 羊土社
オフィスアワー
質問は講義時間中に随時受け付ける。
連絡先
kinagaki@okayama-u.ac.jp
留意事項

生物学 I				単位数	2単位
授業コード	12600	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	杉本 幸雄				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
本授業は、ヒトを中心に身体の成り立ちや身近な病気について学ぶことで、生命系の成り立ちを理解し、健康的に生活するための知識を修得することを目的とする。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	①ヒトの身体の仕組みを説明することができる			知識・技能	
2	②身近な病気から原因を判別できる			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	③健康的な生活を実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート 30% (①、②、③)			1/2/3	
2	期末試験 70% (①、②、③)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
研究員として、医薬品開発分野で新薬開発業務に携わっていた経験から、医療問題の構造を多角的に取り上げ、学生に実践的な健康問題解決への取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 健康とは 2 ホルモンの役割と病気 3 骨と筋肉の役割と病気 4 心臓の役割と病気 5 血管の役割と病気 6 血液の役割と病気 7 腎臓の役割と病気 8 胃腸の役割と病気 9 膵臓の役割と病気 10 肝臓の役割と病気 11 肺の役割と病気 12 眼の役割と病気 13 鼻の役割と病気 14 皮膚の役割と病気 15 免疫の役割と病気					

定期試験 期末試験、レポート
試験のフィードバックの方法 試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前学習として、次週に予定されているテーマに関して関連する話題をまとめておくこと（約1時間）。事後学習として、授業を参考に興味ある内容について理解を深める。レポート・試験では、それらをもとに多角的、発展的な知識や論述等を求める。毎回の授業を真剣に聞くとともに、十分な事後学習（約1時間）をすること。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） なし。 <参考書等> 必要に応じてプリントを配布する。
オフィスアワー 質問は授業時間中に随時、直接受け付ける。
連絡先 sugimoto@okayama-u.ac.jp
留意事項

生物学 I I				単位数	2単位
授業コード	12610	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	柳原 衛				
時間割備考	食品栄養学科の1年生は履修することが望ましい。				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
ヒトの脳と身体について、他の生物との比較を交えながら説明する。もっとも身近な自分自身の体について、観察し、思考し、理解を深めることを目的とする。とくに、われわれの脳で起こっていることについて、神経科学的に考えていく。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	人体の構成を説明できる。			知識・技能	
2	生体の構造と機能の連関を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	ヒトについて、生物界の生物の一種としてとらえ、説明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度(15%)			1	
2	レポート(50%)			2/3	
3	期末試験(35%)			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳と身体についての概観：構造と機能の連関 2. 人体に関する基本的な用語：学術用語とは 3. 人体構成の概略：体幹と四肢 4. 生体の組織と構成細胞 5. 身体の骨組みと骨の発生 6. 身体の動きと筋 7. 生体の情報伝達 8. 神経の構造と機能 9. 生命の維持と脳：脊髄、延髄 10. 個体の維持と脳：橋、中脳、間脳 11. 運動と脳：小脳、大脳基底核 12. 判断と記憶の脳：大脳皮質、扁桃体、海馬 13. 脳の進化：ヒトの脳、動物の脳 14. 生体リズム、睡眠と夢の神経科学 15. 知覚と脳：視覚のしくみと認知 					

定期試験 16週目に筆記試験を行う。さらにレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法 試験終了後に解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 用語の暗記は求めない。 紹介した書籍等のなかの講義テーマに関する部分を、授業前に読んでおく（約20分）とともに、授業後には期末提出のレポート課題に関する事柄をまとめておくこと（約20分）を勧める。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 毎回、プリントを配布する。 <参考書等> 「新しい解剖生理学」 山本敏行、鈴木泰三、田崎京二、南江堂 「楽しくわかる生物・化学・物理」 岡田隆夫、羊土社 「解剖学カラーアトラス」 J. W. Rohenほか、医学書院 他にも、授業中に適宜、参考図書を紹介する。
オフィスアワー 質問は授業後に直接にもしくは随時メールで受け付ける。
連絡先 s8331@m.ndsu.ac.jp
留意事項

科学史 I				単位数	2単位
授業コード	12620	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	九鬼 一人				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>西欧の天文学史・物理学史を題材に、科学と宗教との関係を考察します。それをつうじて幅広い教養を身につけ、表現力・思考力を培うことを目標とします(CPとの関連)。西欧においてキリスト教が、どのように近代科学を育んだかを知り、19世紀より前の科学史の知識を身につけます。授業では「観念体系」(検索しましょう)としての、科学・宗教の関係に目を向けます。どうということかと言うと、「観念体系」として両者を考えれば、科学と宗教を包括的に見ることも可能ではないか、そういう問いかけを行います。また科学が宗教とちがってもつところの「実証性」について、理科教育にも資するよう学ぶことにします。原則として、教材はインターネットの掲示板で確認できるようにします。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	西欧において、科学の発展を促したのは、キリスト教の信仰であったことを記述できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	西欧近代科学において時代が下るにつれ、「実証性」が重視された結果、生じた「科学と宗教のちがい」について説明できる。			思考・判断・表現力	
3	科学と宗教の関係について、主体的で基本的な問いを提示できる。			主体性	
4	レポートの添削をつうじ、表現力・思考力を向上させることができる。			思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の小レポート 毎回の小レポート評価のさい、知識を応用して表現力・思考力が、どのように発揮されているかを重視します。 63点			1/2/4	
2	期末レポート 近代科学史のトピックについての論述問題。科学と宗教の発想が交わる点、食いちがう点を総合的に把握できているかを評価します 30点			1/2/3	
3	英文和訳の問題をつうじ、科学的知識の把握度、翻訳の巧拙を中心に、異文化理解力を評価します。 7点			4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>授業にさいして携行するもの 資料(村上陽一郎『西欧近代科学(新版)』)のコピー(大学で紙媒体で一括して渡す。同じpdfは掲示板にアップする)。教科書(村上陽一郎『科学者とは何か』は科学史を俯瞰するために用いる)。掲示板で毎回配布する教材(pdfで回ごとにパッケージにして毎回配布する)。授業初回に配布する予習・復習ワークブック(シラバスからダウンロード可能)。</p> <p>授業方法 対面授業を基本とします(コロナの感染状況で変わることがあるかもしれません)。資料を見ながら、PCを活用しつつ授業を行います。</p>					
1. 近代科学の前史					
<p>神の目的の名のもとでの宇宙観 →教科書・資料 参考文献: アリストテレス『天界について』『自然学』 事前学修: manabaの予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
2. 古代の天文学・天動説 ブトレマイオスの体系					
<p>天動説でも見かけの運動は説明できる →資料 philosophyの英英辞典翻訳 事前学修: manabaの予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
3. コペルニクスの意義 数学的仮説ではない地動説					
<p>地動説は天動説より一概に単純な体系とは言えない→資料 プラトン哲学・動画視聴 参考文献: コペルニクス『回転について』序文・資料に対する異説も紹介 事前学修: 動画の予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
4. コペルニクスの意義 新プラトン主義の影響					
<p>新プラトン主義の太陽崇拜 →資料 事前学修: manabaの予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
5. ケプラーと新天文学 新プラトン主義の影響					
<p>新プラトン主義の神秘主義 →資料 ケプラーの天文学・動画を視聴 事前学修: 動画の予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
6. 古代の運動力学 アリストテレス自然学					
<p>自然の本性に従って運動は「変化」する →資料 参考文献: アリストテレス『自然学』 事前学修: manabaの予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					
7. intermission: 理科学的な考え方					
<p>P.P. を使って科学の「実証性」を理解する →資料 地動説の展開がなぜ近代科学の幕を開けたか 事前学修: manabaの予習 事後学修: manabaの講評を復習</p>					

<p>8. ガリレオ・ガリレイ 自然落下 実証主義??? →資料 事前学修:manabaの予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>9. ガリレオ・ガリレイ ガリレオの天体観察 俗に、アリストテレス天文学に実証的反例を示した、と言われる→資料 ガリレオについての俗説・動画を視聴 事前学修:動画の予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>10. ガリレオ・ガリレイ 月に関するガリレオのスケッチ 正確か・不正確か議論は分かれる・最近の『星界の報告』研究の紹介 事前学修:manabaの予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>11. プレヒトの戯曲を題材にしてガリレオ裁判の真相を知る 参考書:プレヒト『ガリレイの生涯』 映画『ガリレイの生涯』(英語)・動画を視聴 事前学修:動画の予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>12. ガリレオ・ガリレイによる新力学 加速度について →資料 事前学修:manabaの予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>13. ニュートン力学の成立 ニュートンに消された男フック ニュートン力学とケプラーの法則 →資料 事前学修:manabaの予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>14. ニュートン力学の神学的前提 対象の大きさのまま、把握する神・絶対空間 事前学修:manabaの予習 事後学修:manabaの講評を復習</p> <p>15. 科学とキリスト教・まとめ(「モード1以前」の科学) 科学の宗教からの分離 →教科書・資料 西洋科学史の時代区分について・動画を視聴 事前学修:動画の予習 事後学修:manabaの講評を復習</p>
<p>定期試験 期末レポートとして、近代科学史のトピックについての論述問題を課す。なお学期に一回、英文和訳のレポートを課します。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 manaba folioに英文和訳の模範解答を掲載する。期末レポートは添削したものを、各自のmanabaのコレクションにて配布する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)に必要な学修内容・時間 〈予習〉この授業では、manabaを利用します。manabaをつうじて授業に利用する教材を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握してください。予習のポイントは予習・復習ワークブックに記載されています。 動画を視聴する回は、授業前に動画のURLをmanabaに掲載します(予習・復習ワークブックにも記載)。 manabaは履修登録後の次の日から利用できるようになります。(予習30分が望ましい。) 〈復習〉配布した教材の事項をできるだけ暗記して、次回の授業に臨んでください。またmanabaのコレクションに記入されたコメントを閲覧し、反省材料としてください。(復習30分が望ましい。) ◆なお適宜、予習・復習ワークブックをチェックし、学生の授業に臨む姿勢を確認します。</p>
<p>必携書(教科書販売) 〈必携書〉 『科学者とは何か』, 村上陽一郎, 新潮社</p>
<p>必携書(教科書販売以外) 資料は紙媒体で一括して授業ごとに配布する予定です。資料を含めた教材は、manaba folioからダウンロードできるようにします。また初回に予習・復習ワークブックを配布する予定です。</p>
<p>オフィスアワー 情報伝達その他は、manaba folioを活用するので、掲示板に注意してください。質問は掲示板・コレクション・メールで受け付けます。</p>
<p>連絡先 s8185@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 積極的に掲示板を活用することが望ましいです。</p>

医学Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	12640	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	齋藤 信也				
時間割備考	2017年度以前入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>社会福祉分野専攻の学生にとっては、社会福祉士として働く際に専門職として必要な、人体の構造と機能及び疾病に関する知識を習得できる授業とする。医学の知識が、将来取得を目指している資格において重要な位置づけを占める学生（管理栄養士、保育士、幼稚園教諭、認定心理士等）にとっては、そうした専門の中で学ぶ医学の基礎となるような知識が身につく授業とする。</p> <p>それ以外の学生にとっては、医学入門という位置づけで、一般常識として、ひろく医学の知識が学べる授業とする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解できる。			知識・技能	
2	② 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解できる。			知識・技能	
3	③ リハビリテーションの概要について理解できる。			知識・技能	
4	④ 医学の基礎知識について理解できる。			知識・技能	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 40%			1/2/3/4	
2	定期試験 60%			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
医師として医療機関に勤務した実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、リアリティのあるヴィヴィッドな教育を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 人の成長・発達（1）身体の成長・発達 2 人の成長・発達（2）精神の成長・発達 3 人の成長・発達（3）老化 4 身体構造と心身の機能（1）人体部位の名称 5 身体構造と心身の機能（2）各器官等の構造と機能 6 疾病の概要（1）生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患 7 疾病の概要（2）呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系、疾患、骨・関節疾患 8 疾病の概要（3）目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 9 障害の概要（1）視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害 10 障害の概要（2）知的障害、発達障害、認知症、高次機能障害、精神障害 11 リハビリテーションの概要 12 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要（1）国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷 13 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要（2）心身機能と身体構造、活動、参加の概念 14 健康の捉え方（1）健康の概念とプライマリ・ヘルス・ケア、人口統計、健康作り対策 15 健康の捉え方（2）感染症対策、産業保健、歯科保健、他					

定期試験
16 学期末試験
試験のフィードバックの方法
模範解答の公開
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教科書の指定箇所を予習してくる。その日に教えた内容について復習すること。
必携書（教科書販売）
<必携書> 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病』，福祉士養成講座編集委員会編，中央法規出版
必携書（教科書販売以外）
授業で適宜紹介する
オフィスアワー
オフィスを有さないため、オフィスアワーは提供できませんが、授業内容で質問のある学生さんは、授業前、授業後にドシドシ質問してください。
連絡先
shinyaboston1@gmail.com
留意事項

医学I (人体の構造と機能及び疾病)				単位数	2単位
授業コード	12641	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	齋藤 信也				
時間割備考	2018年度以降入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
社会福祉分野専攻の学生にとっては、社会福祉士として働く際に専門職として必要な、人体の構造と機能及び疾病に関する知識を習得できる授業とする。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解できる。			知識・技能	
2	② 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できる。			知識・技能	
3	③ リハビリテーションの概要について理解できる。			知識・技能	
4	④ 医学の基礎知識について理解できる。			知識・技能	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 40%			1/2/3/4	
2	定期試験 60%			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
医師として医療機関に勤務した実務経験を活かして、リアルでヴィヴィッドな教育を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 人の成長・発達 (1) 身体の成長・発達 2 人の成長・発達 (2) 精神の成長・発達 3 人の成長・発達 (3) 老化 4 身体構造と心身の機能 (1) 人体部位の名称 5 身体構造と心身の機能 (2) 各器官等の構造と機能 6 疾病の概要 (1) 生活習慣病と未病, 悪性腫瘍, 脳血管疾患, 心疾患, 高血圧, 糖尿病と内分泌疾患 7 疾病の概要 (2) 呼吸器疾患, 消化器疾患, 血液疾患と膠原病, 腎臓疾患, 泌尿器系, 疾患, 骨・関節疾患 8 疾病の概要 (3) 目・耳の疾患, 感染症, 神経疾患と難病, 先天性疾患, 高齢者に多い疾患, 終末期医療と緩和ケア 9 障害の概要 (1) 視覚障害, 聴覚障害, 平衡機能障害, 肢体不自由, 内部障害 10 障害の概要 (2) 知的障害, 発達障害, 認知症, 高次機能障害, 精神障害 11 リハビリテーションの概要 12 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要 (1) 国際障害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷 13 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要 (2) 心身機能と身体構造、活動、参加の概念 14 健康の捉え方 (1) 健康の概念とプライマリ・ヘルス・ケア, 人口統計, 健康作り対策 15 健康の捉え方 (2) 感染症対策, 産業保健, 歯科保健, 他					

定期試験
16 学期末試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を公開する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教科書の指定箇所を予習してくる。また、当日教えたところは復習すること。
必携書（教科書販売）
<必携書> 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病』, 福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規出版
必携書（教科書販売以外）
授業で適宜紹介する
オフィスアワー
オフィスアワーは設けませんが、質問のある学生さんは、授業前、授業後にドシドシ質問してください。もちろん授業中の質問も大歓迎です。
連絡先
shinyaboston1@gmail.com
留意事項

医学 I I				単位数	2単位
授業コード	12650	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	齋藤 信也				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>医学が長足の進歩を遂げる中で、従来は不可能であったことが医療上可能となってきている。具体的には、臓器移植や生殖医療において様々な医療上の試みがなされているが、一方で、技術的にそれが出来るからといって、それを行ってよいかについては慎重な議論が必要である。特に倫理的な観点からの考え方が重要となってくる。そこで、大学生に身近なテーマを取り上げ、生命や医療にまつわる倫理的課題について、自らの頭で論理的に考える能力が身につくような講義とする。</p> <p>また、超高齢社会を迎えたわが国において、日常生活を営む上で何らかの援助を必要とする人たちは増加してきている。家族の介護力が低下した現在、医療的ニーズに応えながら生活面のケアを提供する「医療福祉」分野への期待は高まっているが、一方で、医療福祉の現場で起きる複雑でデリケートな問題の数々、特に倫理的ディレンマの解決に単一の回答を見いだすことは困難である。そこで、医療職と福祉職の職能的背景の違いも踏まえつつ、チーム・アプローチの中で、その解決試案を探ってゆく力を養えるような授業を行う。また、社会福祉系専攻以外の学生にとっても医学の基礎が理解できるような講義を心がけている。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	生命倫理学の基礎概念が説明できる。			知識・技能	
2	生命倫理、医療倫理についてその内容を大まかに理解できる。			知識・技能	
3	事例を通じて、生命倫理的な論理に基づく議論の方法を身に着ける。			思考・判断・表現力	
4	医療福祉という概念が説明できる。			知識・技能	
5	医療職と福祉職の協働の必要性が理解できる。			主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 40%			1/2/3	
2	課題レポート 30%			1/2	
3	定期試験 30%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
医師として医療機関に勤務した実務経験を活かし、リアルでヴィヴィッドな教育を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理とは何か 2. 生殖補助医療 3. 病名の告知とインフォームド・コンセント 4. 囚工妊娠中絶 5. 人工心臓 6. 安楽死と尊厳死 7. 臓器移植 8. クローン技術 9. 幹細胞技術 10. 永遠の命 11. 医療福祉の場で起こる倫理問題とケアの倫理について 12. 在宅医療と個人情報保護 13. 認知症の高齢者と介護放棄 14. 超低出生体重児と医療 15. 凶悪症児の医療ネグレクト 					

定期試験
16. 定期試験
試験のフィードバックの方法
解答例を示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教科書の指定箇所を予習してくる。また、当日教えた内容は復習すること。
必携書（教科書販売）
<必携書> マンガで学ぶ生命倫理、児玉聡、科学同人
必携書（教科書販売以外）
医療福祉のパートについては、資料を準備する
オフィスアワー
オフィスアワーは設けませんが、質問のある学生さんは、授業前、授業中、授業後にドシドシ質問してください。歓迎します。
連絡先
shinyaboston1@gmail.com
留意事項

心理学Ⅰ〔人見食〕				単位数	2単位
授業コード	12900	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	平松 清志				
時間割備考	2017年度以前入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	科学としての心理学がどのような学問かを説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活において実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	試験(80%)			1/2	
2	小テスト等(20%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>					
1 心理学とは、心理学の歴史					
2 欲求・動機づけと行動、感情・情動					
3 ストレス・適応					
4 感覚・知覚・認知					
5 学習・記憶・思考					
6 心と脳・知能・創造性					
7 人格・性格、集団					
人の成長・発達と心理<4回>					
8 乳幼児期					
9 幼児期・児童期					
10 思春期・青年期					
11 成人期・老年期					
心理的支援の方法と実際<4回>					
12 心理検査の概要					
13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク					
14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング					
15 心理療法の概要と実際					

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されている学習内容について、学習者自身の体験を振り返り、自分なりにまとめておくこと（約20分）。
必携書（教科書販売）
使用しない（随時推薦図書を紹介する）。
必携書（教科書販売以外）
<必携書> 随時推薦図書を紹介する <参考書等> 随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー： 非常勤講師のため、質問等は授業後に受け付ける。
連絡先
hiramatu@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学I (心理学概論) [人見食]				単位数	2単位
授業コード	12901	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	平松 清志				
時間割備考	2018年度以降入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	科学としての心理学がどのような学問かを説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活において実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	試験 (80%)			1/2	
2	小テスト等 (20%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>					
1 心理学とは、心理学の歴史					
2 欲求・動機づけと行動、感情・情動					
3 ストレス・適応					
4 感覚・知覚・認知					
5 学習・記憶・思考					
6 心と脳・知能・創造性					
7 人格・性格、集団					
人の成長・発達と心理<4回>					
8 乳幼児期					
9 幼児期・児童期					
10 思春期・青年期					
11 成人期・老年期					
心理的支援の方法と実際<4回>					
12 心理検査の概要					
13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク					
14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング					
15 心理療法の概要と実際					

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されている学習内容について、学習者自身の体験を振り返り、自分なりにまとめておくこと（約20分）。
必携書（教科書販売）
使用しない（随時推薦図書を紹介する）。
必携書（教科書販売以外）
<必携書> 随時推薦図書を紹介する
<参考書等> 随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー： 非常勤講師のため、質問等は授業後に受け付ける。
連絡先
hiramatu@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学Ⅰ [英日現]				単位数	2単位
授業コード	12905	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	平松 清志				
時間割備考	2017年度以前入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	科学としての心理学がどのような学問かを説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活において実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	試験 (80%)			1/2	
2	小テスト等 (20%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>					
1 心理学とは、心理学の歴史					
2 欲求・動機づけと行動、感情・情動					
3 ストレス・適応					
4 感覚・知覚・認知					
5 学習・記憶・思考					
6 心と脳・知能・創造性					
7 人格・性格、集団					
人の成長・発達と心理<4回>					
8 乳幼児期					
9 幼児期・児童期					
10 思春期・青年期					
11 成人期・老年期					
心理的支援の方法と実際<4回>					
12 心理検査の概要					
13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク					
14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング					
15 心理療法の概要と実際					

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されている学習内容について、学習者自身の体験を振り返り、自分なりにまとめておくこと（約20分）。
必携書（教科書販売）
使用しない（随時推薦図書を紹介する）。
必携書（教科書販売以外）
<必携書> 随時推薦図書を紹介する
<参考書等> 随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー： 非常勤講師のため、質問等は授業後に受け付ける。
連絡先
hiramatu@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学I (心理学概論) [英日現]				単位数	2単位
授業コード	12906	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	平松 清志				
時間割備考	2018年度以降入学生対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	科学としての心理学がどのような学問かを説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活において実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	試験 (80%)			1/2	
2	小テスト等 (20%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>					
1 心理学とは、心理学の歴史					
2 欲求・動機づけと行動、感情・情動					
3 ストレス・適応					
4 感覚・知覚・認知					
5 学習・記憶・思考					
6 心と脳・知能・創造性					
7 人格・性格、集団					
人の成長・発達と心理<4回>					
8 乳幼児期					
9 幼児期・児童期					
10 思春期・青年期					
11 成人期・老年期					
心理的支援の方法と実際<4回>					
12 心理検査の概要					
13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク					
14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング					
15 心理療法の概要と実際					

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法 試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 次週に予定されている学習内容について、学習者自身の体験を振り返り、自分なりにまとめておくこと（約20分）。
必携書（教科書販売） 使用しない（随時推薦図書を紹介する）。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 随時推薦図書を紹介する <参考書等> 随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー オフィスアワー： 非常勤講師のため、質問等は授業後に受け付ける。
連絡先 hiramatu@post.ndsu.ac.jp
留意事項

ことばと社会				【単位数】	2単位
授業コード	18030	科目ナンバリング	110Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	高阪 香津美				
時間割備考	2019年度以前入学生対象。2020年度以降入学生は自立力育成科目A群。				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
日本に暮らす外国人がどのような分野でいかなる課題を抱えながら生活をしているのか、その課題をどうすれば解決することができるのかについて主体的に学び、考えます。また、このテーマは、今、この瞬間も議論がなされ、動いているものであるため、常に、社会の動向に目や耳を傾け、ニュースや新聞記事も扱います。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	物事を批判的に捉えることができる。			思考・判断・表現力	
2	多文化化する日本社会で起きる様々な事象を説明することができる。			知識・技能	
3	授業内容や自らが調べたことをつなげあわせ、課題解決のための方法を考えることができる。			思考・判断・表現力	
4	自分の身の回りで起こっている事柄に関心を持つことができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小テスト (20%)			2/4	
2	毎回の授業後に提出が求められる平常課題 (20%)			1/2/3/4	
3	日本人と外国人児童・生徒がともに学べる活動案の作成課題 (20%)			3	
4	期末試験 (40%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 本授業の進め方、評価、課題に関する説明、日本語教育能力試験の紹介、教授者の自己紹介 2 日本に暮らす外国人、多言語・多文化化する岡山県の現状 3 外国人住民のことばの問題と「言語サービス」、多言語表示 4 やさしい日本語に関する基礎知識 5 やさしい日本語活動 6 コミュニティ通訳(主に医療通訳) 7 高齢化する外国人と介護を担う外国人 8 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (1) 日本の学校 9 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (2) 外国人学校 10 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (3) 不就学・母語喪失 11 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (4) 帰国後の(再)適応 12 問題演習による本分野の知識の定着(日本語教育能力検定試験) 13 多文化化する社会における日本人児童・生徒を巻き込んだ教育 14 多文化化する社会における日本人児童・生徒を巻き込んだ教育(フィードバックと全体共有) 15 今学期の総復習					

定期試験 ・16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法 小テストについては、実施直後に答えあわせと解説を行う。 期末試験については、模範解答をmanabaで掲示する。 その他の提出物については、授業内でフィードバックを行い全体で共有する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎授業後、今週の授業、ならびに、次回の授業に関係する内容を問う平常課題を出すため、準備学習が必要である。なお、予習・復習のための準備学習には目安として30分を要する。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） 教科書は用いず、資料を配布する。 参考図書については、適宜、授業中に紹介する。
オフィスアワー 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 katsumikosaka@hotmail.com
留意事項 ・身の回りで起こっている事象に関心を持ち、常にアンテナを張っておくこと。 ・小テストを欠席しても、配慮を要する理由と判断されるもの以外は別日にテストは行わない。